



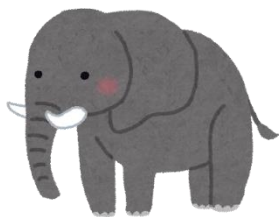
世界の果ての・・・

2学期が始まり1カ月が過ぎ、子どもたちとの朝の挨拶も、「暑いねー。」から「ちょっと涼しくなったね。」と変化してきました。その子どもたちの登校の様子を見ていると、以前に勤務していた学校で、子どもたちに話したある映画を思い出します。

「世界の果ての通学路」ご存じの方もいらっしゃるかもしれませんが、10年位前に公開されたフ



ランスのドキュメンタリー映画です。この映画には4組の子どもたちが登場します。アルゼンチンのカルロス君は18kmの道のりを馬に乗って1時間半、モロッコのザビラさんは寮に行くのに22kmを4時間、インドのサミュエル君は車いすを2人の弟に押ししてもらいながら4kmを1時間半かけて登校します。もう一人がケニアのジャクソン君。6歳の妹を連れて15kmの道のりを2時間かけて登下校します。朝の5時半に出発。道路など無く、広いサバンナや山の中を小走りに進みます。キリンやシマウマ、ヒョウ



ウなど様々な動物に出会いますが、その中でも一番危険なのはゾウだそうです。ケニアでは毎年4~5人の子どもたちがゾウに襲われて命を落としています。

家を出るときに、お父さんは何度もゾウに注意するように話します。ジャクソン君は妹を守るため、いつも注意深くあたりを見回してゾウが見つからないようにしています。

学校も日本に比べれば粗末な作りです。教室には電灯がなく、窓から入る明かりの中で勉強しています。このような環境の中でジャクソン君は将来パイロットになるという夢を持ち、一

生懸命勉強しています。

ジャクソン君が映画公開の前にインタビューに答えています。

「日本の子どもたちに伝えたいことは何ですか」「学校への道のりですが、大変な道のりではありませんが、それは知識を習得するための道のりであり、その知識はのちの人生に役立ってくれるものです。自分の将来を救ってくれるのは、教育しかありません。たとえ学校に行く道に危険はあっても、学校に行くこと自体がいいことなのです。

本来、学校は忙しい場所で、やるべきことはたくさんあるし、真剣にやらなきゃならないことだらけで、先生も本も自分をより高めるためにある。やるべきことはたくさんある。未来がよいものになるなら苦じゃない。学校は明日のためにチャンスをつかむ場所です。」

これが小学生の言葉なのかと思いますが、毎日の通学の困難さがジャクソン君をたくましく成長させているのでしょう。雨が降っているから、寒いから、暑いから、寝坊したからといった理由で車に乗って通学する子どもたちを見たら、ジャクソン君は何と言うのでしょうか。世界と渡り合うためにも、世界の様々な子どもたちの状況を知り、自分を振り返り、負けないように頑張っていくことが大切です。

運動会に向けて

11月2日(土)に今年度の運動会を開催します。今回から子どもたちの活躍する場面を増やし、終日開催としました。3日の代表委員会でスローガンも決定し、徐々に運動会モードに移行していきます。



子どもたちが挑戦する機会、友達の頑張りを応援する機会として、たくましく、優しく成長してくれることを期待しています。体調を管理するとともに、歩いて登下校してしっかりと体を鍛えておきましょう。